

通所事業所における手工芸活動に関する実態調査

中村 和也¹・武持 敬太²・東 登志夫³
榊原 淳⁴・田中 浩二⁵・小河原格也⁶

要旨 長崎市内及び近郊の通所事業所を対象に、手工芸活動の現状を把握するためのアンケート調査を行った。その結果、実施頻度や目的には、通所リハビリテーション事業所と通所介護事業所で違いが認められたが、実際に行われている手工芸種目は、両事業所とも、簡単に導入がしやすく、低コストである折り紙、貼り絵、塗り絵などが多かった。手工芸活動の運営は大半の事業所において介護職員・看護師が担当しており、作業療法士（OT）が勤務している事業所はまだまだ少なく、様々な課題を抱えながら運営されていることなどが明らかとなった。これらの結果より、通所事業所に勤務するOTの増加が望まれると共に、作業療法士会などが中心となって、手工芸担当者を対象にした研修会の開催や、各事業所の勉強会への講師派遣などを行っていく必要があると思われる。

長崎大学医学部保健学科紀要 16(2): 115-120, 2003

Key Words : 手工芸活動, 通所リハ, 通所介護

<はじめに>

「在宅」と「自立支援」を重視する介護保険制度の理念のもと、通所リハビリテーション事業所（以下、通所リハ）、通所介護事業所（以下、通所介護）は、在宅で生活している高齢者の身体的・精神的および社会的機能の維持、介護者の介護負担の軽減を図ることを目的とし¹⁾、在宅支援において重要な役割を担っている。通所サービスを充実させていくことは、障害をもつ高齢者が在宅で暮らすことができる期間を延長するばかりでなく、本人や家族の生活の質を保証するものである^{2),3)}。通所事業所では利用者が長時間滞在するため、各事業所で様々なプログラムが展開されており^{4),5)}、なかでも手工芸活動は、集団および個別プログラムとしてよく用いられている。しかしながら、通所事業所における手工芸活動に関するマニュアル的なものは存在せず、活動を用いたアプローチを専門とする作業療法士（以下、OT）として通所事業所従事者から手工芸活動に関して相談を受ける事も多い。今後、老人分野におけるOTの需要が益々高まり、通所事業所に勤務するOTも増加することが予想されることから、通所事業所における手工芸活動のあり方について検討していくことは重要と思われる。

そこで、通所事業所に対して、手工芸活動の現状についてアンケート調査を行い、若干の知見を得たので報告する。

<対象と方法>

調査の対象は長崎市内及び近郊の通所リハ57事業所、通所介護48事業所、計105カ所の通所事業所とした。

アンケート調査は手工芸活動に関して、独自に作成した質問用紙を用い、各事業所へ郵送にて配布・回収する方法をとった。アンケートの回答は手工芸活動を直接担当しているスタッフに依頼した。調査期間は平成14年11月11日から同12月2日とした。調査内容は表1のとおりであり、回答方法は質問の項目により選択肢方式または記述方式とした。

表1. 調査内容

項目	回答方法
1. スタッフおよび利用者数について	(選択回答)
2. 手工芸活動を一日のプログラムに取り入れているか	(選択回答)
3. 手工芸活動の対象者について	(選択、重複回答)
4. 手工芸活動を行う主な目的について	(上位2つ、自由回答)
5. 行われている手工芸種目について	(選択、重複回答)
6. 手工芸活動を行う上で困っていることは何か	(選択、重複回答)
7. 困っている事への対応策	(自由回答)
8. 手工芸活動に関わっている職種について	(選択回答)
9. 手工芸活動に対してOTがどのように関わっているか (OTが所属している事業所のみ)	(選択回答)
10. 手工芸活動を行っている時間帯について	(自由回答)
11. 材料費はどのようにしているか	(選択回答)
12. 手工芸活動に対して工夫している点について	(自由回答)

- 1 長崎記念病院
- 2 長崎百合野病院
- 3 長崎大学医学部保健学科
- 4 長崎大学医学部・歯学部附属病院
- 5 介護老人保健施設 三原の園
- 6 和仁会病院

<結 果>

回答は66事業所（通所リハ30事業所，通所介護36事業所）より得られた。回収率は62.9%であった。

1) 一日の利用者数について（図1）

通所リハでは20名未満の事業所が13事業所（43%），20名～30名が9事業所（30%），30名～40名が3事業所（10%），40名以上が5事業所（17%）であり，通所介護では20名未満の事業所が22事業所（61%），20名～30名が12事業所（33%），30名～40名が1事業所（3%），40名以上が1事業所（3%）であった。

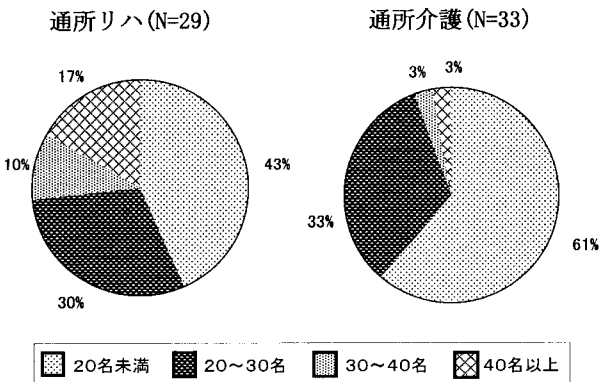


図1. 一日の利用者数について

3) 手工芸活動の実施頻度について（図2）

通所リハでは「毎日取り入れている。」と回答したのが18事業所（60%），「週数回取り入れている。」が3事業所（10%），「不定期で取り入れている。」が8事業所（26.7%），「取り入れていない。」が1事業所（3.3%）であった。通所介護においては「毎日」が11事業所（30.6%），「週数回」が（8.3%），不定期が19事業所（52.8%），「取り入れていない」が3事業所（8.3%）と，手工芸活動の実施頻度は通所リハの方が通所介護よりも高かった。

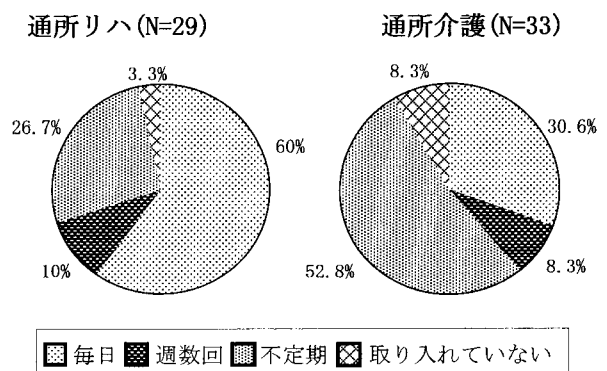


図2. 手工芸活動の実施頻度について

2) OTの勤務状況について（表2）

通所リハにおいて常勤が9事業所（30%），非常勤が3事業所（10%）であり，通所介護は常勤が1事業所（2.8%），非常勤が2事業所（5.6%）で，OTの勤務率は低い結果であった。その他のスタッフについては表3のとおりである。

表2. OTの勤務状況について

	常勤 (%)	非常勤 (%)
通所リハ	9事業所 (30%)	3事業所 (10%)
通所介護	1事業所 (2.8%)	2事業所 (5.6%)

表3. 一日のスタッフ数について（常勤，OT以外）

※一日の平均利用者数ごとに集計

通所リハ		通所介護	
●20名未満 (13事業所)		●20名未満 (22事業所)	
介護職員 0～6名 (平均2.5名)		介護職員 0～6名 (平均2.8名)	
看護師 0～3名 (平均1.2名)		看護師 0～4名 (平均1.3名)	
その他 0名		看護師 0～4名 (平均1.2名)	
●20名～30名 (9事業所)		●20名～30名 (12事業所)	
介護職員 2～8名 (平均4.1名)		介護職員 2～8名 (平均4.9名)	
看護師 1～4名 (平均2.4名)		看護師 1～3名 (平均1.5名)	
その他 0～5名 (平均1.2名)		看護師 1～4名 (平均1.3名)	
●30名～40名 (3事業所)		●30名～40名 (1事業所)	
介護職員 3～5名 (平均4名)		介護職員 3名	
看護師 1～4名 (平均2.7名)		看護師 6名	
その他 0～1名 (平均0.3名)		看護師 1名	
●40名以上 (5事業所)		●40名以上 (1事業所)	
介護職員 5～10名 (平均7.2名)		介護職員 4名	
看護師 4～6名 (平均5名)		看護師 11名	
その他 0～8名 (平均1.6名)		看護師 1名	

4) 対象としている利用者について（図3）

通所リハでは48.3%の事業所が利用者全員，同じく48.3%の事業所が希望者のみを対象としていた。これに対し，通所介護では15.2%が利用者全員，81.8%が希望者のみを対象としていた。

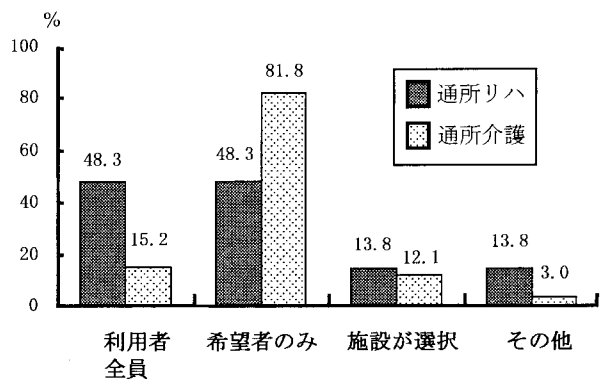


図3. 手工芸活動の対象としている利用者

5) 手工芸活動を行う目的について（図4）

通所リハでは「趣味的活動によるQOL向上」と「上肢機能の維持・向上」を，通所介護では「趣味的活動によるQOLの向上」をそれぞれ6割前後の事業所が回答していた。

通所事業所における手工芸活動

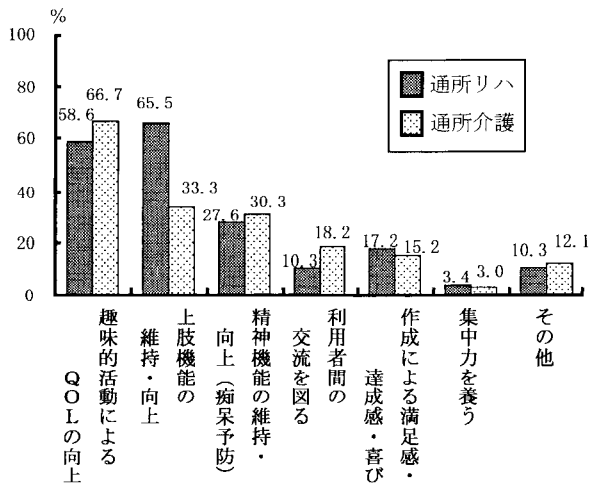


図4. 手工芸活動を行う目的について

6) 行われている手工芸種目について (図5)

通所リハ・通所介護でほとんど相違はなく、折り紙、貼り絵、ぬりえ、ちぎり絵が上位を占めていた。

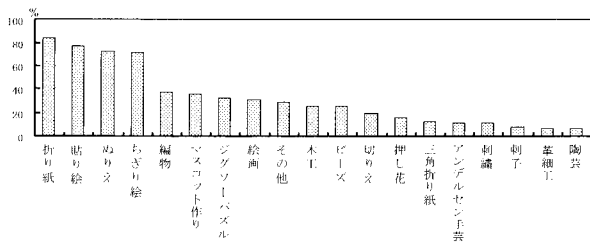


図5. 通所事業所において行われている手工芸種目について

7) 手工芸活動を行う上で困っていることについて (図6)

通所リハ、通所介護ともに男性利用者への導入、意欲・発動性がない利用者への導入、痴呆者への対応、内容のマンネリ化などが挙げられており、どの事業所も複数の課題を抱えながら運営していることが明らかとなった。また、困っていることに対し、それぞれの事業所独自で対応していることについては図7のとおりである。

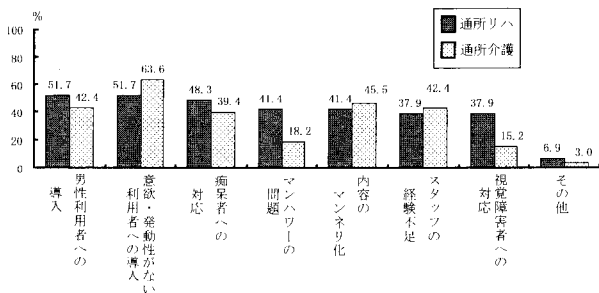


図6. 手工芸活動を行う上で困っていることについて

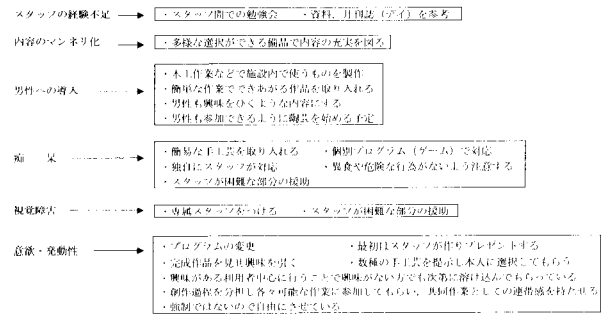


図7. 困っていることへの対応

8) 手工芸活動に関わっている職種について (図8)

「介護職員・看護師・理学療法士・OT・その他」の選択肢の中から、重複回答を認める形で回答を求めた結果、通所リハにおいて介護職員を選出したのが30事業所(100%)、看護師が21事業所(72.4%)、理学療法士が2事業所(6.9%)、OTが8事業所(27.6%)、また通所介護においては、介護職員が32事業所(97%)、看護師が22事業所(66.7%)、理学療法士が0事業所、OTが1事業所(3%)と両事業所とも介護職員・看護師がその大半を占めていた。

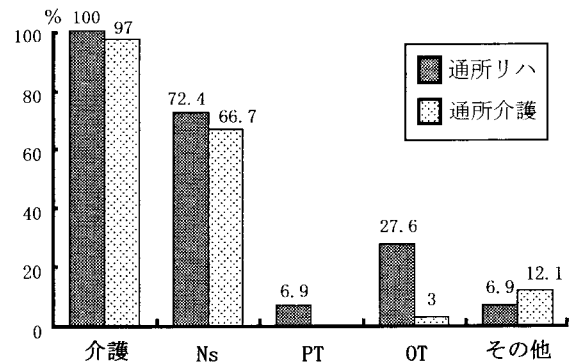


図8. 手工芸活動に関わっている職種について

9) 手工芸活動へのOTの関わり方について (表4)

OTが勤務している事業所における手工芸活動に対するOTの関わり方は、通所リハ・通所介護ともに「企画と実際の運営を行っている」と答えた事業所が最も多く、その他は介護職員・看護師による運営のサポートや作業工程のアドバイス・作品の紹介などであった。

10) 活動時間について (図9)

手工芸活動の時間については、通所リハ・通所介護ともに多くの事業所において30分から90分の間で活動時間が設定されていた。

11) 材料費について (図10)

通所リハ・通所介護ともに事業所側が全額または一部を負担しているところが大半であった。また材料の工夫について自由回答を求めた結果、廃材の利用、自然素材(石、つる、落ち葉 etc)の利用、リサイクル、寄付を

募る等がほとんどで、基本的にはどの事業所も材料費がかからないような運営をしていることが伺えた。

表4. 手工芸活動へのOTの関わり方について

	通所リハ	通所介護
企画・運営の両方を行う	6	2
企画は行うが運営はしない	0	0
運営は行うが企画はしない	0	0
その他★	4	0
無記入	1	1

- ★その他の自由回答
- ・ケースに応じて助言などを主としている
 - ・作業工程の指導
 - ・作品の紹介
 - ・利用者に対してのアドバイス

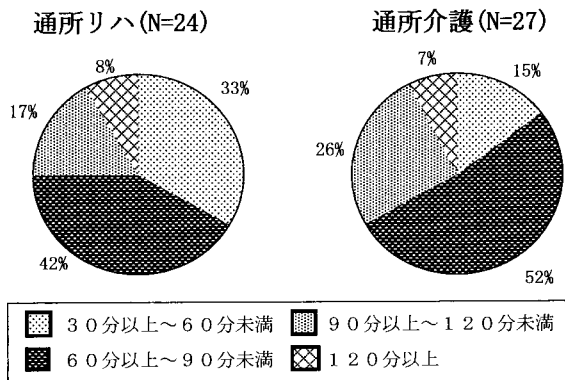


図9. 活動時間について

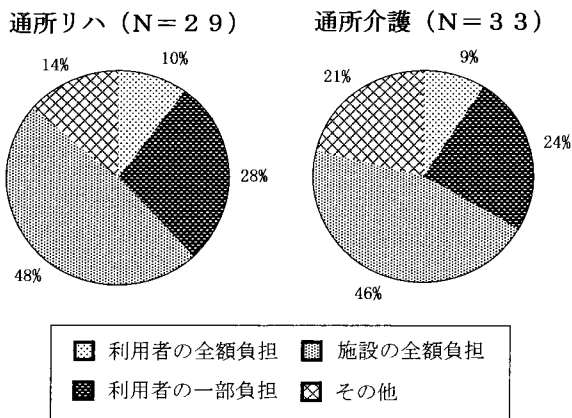


図10. 材料費について

<考 察>

今回の調査の結果、ほとんどの通所事業所がプログラムの一つとして手工芸活動を取り入れていることが改めて確認された。手工芸活動の対象者については、通所リハでは、約半数の事業所が全員を対象としているのに対し、通所介護では、全員を対象としているのは、15.2%にしかならず、約8割の事業所が希望者のみを対象とし

ていた。また、手工芸活動の目的に関しては、通所リハでは、回答した事業所の多い順に、「上肢機能の維持・向上」が最も多く、続いて「趣味的活動によるQOLの向上」であったのに対し、通所介護では、順位が逆転して「趣味的活動によるQOLの向上」、「上肢機能の維持・向上」の順であった。つまり、通所リハでは、手工芸活動を利用者の心身機能の維持・向上に向け、積極的に用いているのに対し、通所介護では、入浴、レクなどの活動時間の合間を利用して、趣味活動を通じた有意義な時間を過ごす手段の一つとして導入されている傾向にあるのではないかと推察された。しかしながら、このように手工芸活動の実施頻度や目的に違いが認められながらも、実際に行われている手工芸種目は、折り紙、貼り絵、ぬりえ、ちぎり絵等が上位を占めており、両事業所で違いは認められなかった。したがって、現状としては導入のしやすさや低コストに重きが置かれ、個々のニーズに合わせた十分な対応ができているとは言い難い状況にあると思われる。このことは、手工芸活動の実施にあたり困っていることとして、両事業所ともに、意欲・発動性の低い利用者などへの対応、男性利用者や痴呆への対応、内容のマンネリ化やスタッフの経験不足などが高い割合で挙げられていたことから伺える。野村²⁾はわが国の通所リハ・通所介護には幼稚園のようなところには行きたくない高齢者に思わせる雰囲気をもつところもあると指摘している。また、野村⁶⁾は手工芸活動が痴呆性高齢者の活動性の向上や不適応行動の改善に効果があるとされても、単に実施する事が優先されるのではなく、その前にスタッフは痴呆性高齢者個人に適している手工芸を見つける試みや、手工芸活動を勧めるかどうかの判断をすることが重要であると指摘している。さらに、立藤⁷⁾は、積極的な治療的支援が必要なのか、社会生活維持のための福祉的支援が必要なのか、個々の目標を明確にした上で、対象者のニーズに合わせた支援を実施することが不可欠であると述べている。したがって、利用者の身体機能や精神機能はもちろんのこと、生活歴や趣味などを十分に考慮した上で、対象者に必要でかつ本人が好む活動を模索し、提供する努力が必要であると思われる。また、心身レベルに応じた工程の工夫、作品展やプレゼントに向けた作品作りなど手工芸活動に対する利用者のモチベーションを向上・持続させるための取り組みについては十分検討する必要がある。しかし、一日に20名から、多いところでは60名もの利用者を対象とする現状において、これらの実践には、それなりの知識や経験が不可欠であることは言うまでもない。本来ならば、活動を通して心身機能の維持・向上を図る専門職であるOTが、これらの通所事業所で、その能力を発揮することが期待される場所であるが、現状ではOTの就業率は非常に低く、またOTが関わっている事業所においても、手工芸活動への直接的な関わりは低い現状にあり、実際に運営に携わっているのは介護職員・

看護師であった。したがって、今後、通所事業所に勤務するOTが増加することを望むとともに、県の作業療法士会によって、通所事業所の職員向けの手工芸活動に関する研修会の開催や、各事業所の勉強会への講師派遣といった指導・援助を行っていくことが必要と思われる。また、本年度4月に介護報酬の改訂が行われたことを機に、通所リハでは、個別リハ加算が新設され、通所介護においても機能訓練加算のためにOTの需要がさらに高まってきている。今回得られたデータをもとに、通所事業所における手工芸活動のあり方だけでなく、そこでのOTの役割についても、さらに検討していきたい。

<文 献>

- 1) 藤原瑞穂, 阿部和夫: 在宅高齢者の通所サービスの意義—ADL能力と罹病期間による検討—. 作業療法, 21: 240-250, 2002.
- 2) 野村美千江: ミネソタにおける痴呆性老人デイケアの実際 海外研修報告. 愛媛県立医療技術短期大学紀要, 第12号: 67-73, 1999.
- 3) 斎藤正身: デイサービス (通所介護) とデイ・ケア (通所リハビリテーション). Modern Physician, 20: 589-592, 2000.
- 4) 岩崎テル子: 老人領域におけるデイケア (ナイトケア) の援助構造. OTジャーナル, 31: 440-449, 1997.
- 5) 堀口貞子: デイサービスの援助構造. OTジャーナル, 31: 492-499, 1997.
- 6) 野村豊子: 回想法とライフレビュー: その理論と技法, 中央法規出版, 東京, 1998, 45.
- 7) 立藤千鶴, 西野愛子: デイケアプログラムのマンネリ化について考える デイケア利用者の実態調査から. 日本精神科看護学会誌, 第42号: 180-182, 1999.

Survey of Arts and Crafts Activities at Day Activity Centers

Kazuya NAKAMURA¹, Keita TAKEMOCHI², Toshio HIGASHI³,
Atsushi SAKAKIBARA⁴, Koji TANAKA⁵, Kakuya OGAHARA⁶

- 1 Nagasaki Memorial Hospital
- 2 Nagasaki Yurino Hospital
- 3 The School of Health Sciences, Nagasaki University
- 4 Nagasaki University Hospital of Medicine and Dentistry
- 5 Geriatric Health Services Facility Miharanosono
- 6 Wajinkai hospital

Abstract A survey was conducted to learn about the arts and crafts activities being conducted at day activity centers in the city of Nagasaki and its suburbs. The results showed differences in the frequency and purpose of the activities depending on whether they were performed at a day care or a day service, but the types of arts and crafts done at both types of facilities were often simple, easy-to-teach, low-cost projects such as paper folding, collage making, and coloring. At the majority of the facilities, caregivers or nurses oversaw the arts and crafts activities, and the number of facilities with occupational therapists (OT) on staff is still few. It was found that these types of facilities were faced with many challenges in their operations. The results showed that while an increase in the number of OTs at day service is desired, there is also a need for the occupational therapist association to take the lead in holding training sessions for those who oversee arts and crafts activities and to send speakers to participate in study sessions held at various facilities.

Bull. Nagasaki Univ. Sch. Health Sci. 16(2): 115-120, 2003

Key Words : arts and crafts activities, day care, day service